

# 東日本支部会2017「運用管理のトランスフォーメーション!?!」 ～ 「未来型運用サービス」を作ろう! ～

2017年02月15日

JP1 ユーザ会 東日本支部会 2017 主催：株式会社アシスト 協賛：株式会社 日立製作所

**運用管理の  
トランスフォーメーション!?!**  
「未来型運用サービス」を作ろう!

2017年2月15日 水 会場：JA 共済ビルカンファレンスホール（東京・永田町）

アシストJP1ユーザ会が発足して12年。今年も2016年度の総まとめとして、東日本支部主催による運用管理をテーマとしたセミナー「東日本支部会2017」を開催しました。

IoT/AI/ビッグデータといった新技術によるビジネス変革に対し、情報システム部門はどのように取り組むべきか、というテーマを中心に進められたマネジメントトラック。

JP1ユーザ会の会員様による事例発表と、JP1 V11.1の新機能紹介を中心に行ったテクニカルトラックの2本立てでお届けしました。実際にJP1を利用されている運用管理現場の方からマネージャ層の方まで、約70名のお客様にご来場いただきました。

主催：アシストJP1ユーザ会東日本支部 後援・協賛：株式会社 日立製作所

基調講演 | マネジメント・トラック | テクニカル・トラック | アンケート&参加者の声 | Presents

## 基調講演

### 基調講演「IoT/AI/ビッグデータ活用によるビジネス改革」

株式会社日立製作所サービスプラットフォーム事業本部  
IoT・クラウドサービス事業部 ビッグデータ本部  
システム基盤ソリューション部 ビッグデータエバンジェリスト 船生 幸雄 様

#### ■プロフィール

1985年、日立製作所入社。音声合成システムのソフトウェアの開発を担当した後、統合運用管理製品「JP1」の開発、グループウェア「Groupmax」の製品企画等に従事。2003年以降、クラウド対応サービス、スマホ製品対応等の立上げに従事。2012年からビッグデータ事業に関与し、現在、日立のIoT（Internet of Things）、AI等のエバンジェリストとして、社内外のセミナーで講演する一方、製造業を中心としての協創活動に参画中。



全世界で起こっているデジタル化のメガトレンド、それを後押しするIoTの標準化動向や、AI/ビッグデータを活用したIoTによるビジネス改革について、事例を交えてご講演いただきました。企業には販売や製造などの様々な現場や、経営部門から発生する大量のデータ

があります。「ユーザ視点での経営」のために、情報システム部門は日々発生するデータを各利用者が最適なタイミング、且つ活用しやすい仕組みを設け、「データを最大限に利活用する経営＝データ・ドリブン経営」の調整役を担う必要があります。企業経営における情報システム部門の重要性を再認識することが出来たのではないのでしょうか。

## マネジメント・トラック

### キーノート「情報システム部門は何を考えているか？～ 2017年 変革に向けたヒント～」

株式会社テクノ・システム・リサーチ シニアアナリスト 幕田 範之 様

#### ■プロフィール

2000年に株式会社テクノ・システム・リサーチに入社。サービスマネジメントソフトウェアやストレージ分野の市場を中心に調査分析を担当。常に『なぜ』を意識しながら、メーカー、SI/VAR、ユーザの三方向から調査を行い、その分析結果を基に立体的に市場を捉え、提言およびアドバイスを行う。



約300社に及ぶ企業の「情報システム部門」と「ビジネス部門」を対象とした独自アンケート調査に基づいて、最新のIT動向についてご講演いただきました。

ビジネス部門の意識として、この数年間で情報システム部門とコミュニケーションを取ろうと変化している、という結果がありました。情報システム部門は、ITがいかにビジネスに貢献できるかをアピールする良いタイミングであるとお話いただきました。

#### ●アンケート例(一部抜粋)

<情報システム部門>

業務部門・エンドユーザの期待に応えられているものは何か？

システム運用管理は自動化出来ているのか？

<ビジネス部門>

ITサービスにメリットを感じているか？

情報システム部門は期待に応えられているのか？

ITにお金を掛けてもいいのか？

### パネル討論「夕方まで生討論!?Season5 ～ デジタル・トランスフォーメーション時代の運用管理～」

運用現場の第一線で活躍されているパネリストの皆様、運用部門の「これから求められる変革と必要な取り組み」という点を中心に討論していただきました。

「変革」の議論の中で「攻めの運用」についての各社の意見が交わされました。これまでの運用通り、与えられてきた前提をただ守るのではなく、旧来の方法から脱却しもっと変えよう／良くしよう、という人材が今後必要という意見が、どの企業の運用部門にも共通する課題として盛り上がりました。

#### ■ディスカッションテーマ

- ・IT運用に関わる課題と対策
- ・運用部門に期待される「変革」とは？
- ・2017年に取り組むべきテーマ



#### ■パネリスト

株式会社荏原製作所 佐藤 敦志 様

NTTコミュニケーションズ株式会社 九重 博昭 様

株式会社テクノ・システム・リサーチ 幕田 範之 様  
株式会社日立製作所 瀬戸山 正幸 様  
■モデレータ  
株式会社アシスト 蝦名 裕史

#### 参加者の声

- ・立場の異なるメンバー構成で、様々な視点のコメントが聞くことが出来良かったです。
- ・運用現場のリアルなお話は刺激になりました。
- ・経験豊富な運用者視点の考え方がよくわかりました。

## テクニカル・トラック

### 自社運用内製化のポイント

**株式会社JSP**  
経営企画本部 情報システム部 システム企画・開発グループ  
主査 佐藤 吉幸 様

自社ビジネスに開発部門と運用部門がそれぞれどのように貢献するのかを、「品質/コスト/納期」の3つの視点で評価をし、自社開発及び運用業務内製化に至った事例をご講演いただきました。運用部門はビジネス貢献テーマに「最適なコストコントロール」を掲げ、JP1による監視システム構築で汎用機運用時と比較し、25%ランニングコストを削減する計画であるということです。

属人化防止のため、開発部門と運用部門の担当者を2~3年で交代し、両方の部門のスキルと役割を身につけるといふ施策をご紹介いただきました。運用業務のPDCAサイクルを回しながら必ず文書化し、引き継ぎは担当者間ではなく文書ベースで行うことで、スムーズな交代を実現されています。また、運用部門から積極的にシステム利用部門へ業務改善を提案する業務スタイルを実践していることなど、ジョブローテーションや情報システム部門が目指すべきひとつの形をご紹介いただきました。



### 「共用監視サービス」でのJP1

**TISシステムサービス株式会社**  
プラットフォームオペレーション本部  
プラットフォーム運用基盤部 部長 松本 真 様

2003年より実施されている、JP1を利用したミッションクリティカルなシステム監視サービス「stella」を中心とした、運用サービスについてご講演いただきました。監視ニーズや価格と性能のバランスを考慮し、「エージェントレス型」や「オープンソース利用型」など全3種のメニューを用意されています。大規模環境で監視を行う上での勘所として、V11の「大量メッセージ抑止機能」を利用してのメッセージ監視や、監視サーバやネットワークを外部から監視してサービス品質を保つといった、サービス提供企業としての工夫を具体的にお話いただきました。若手社員の新たな発想を生み出すため、環境と時間を作り出したいというメッセージとともに、JP1ユーザ会に対しても、若手社員の良い気づきになって欲しいと期待をお寄せいただきました。



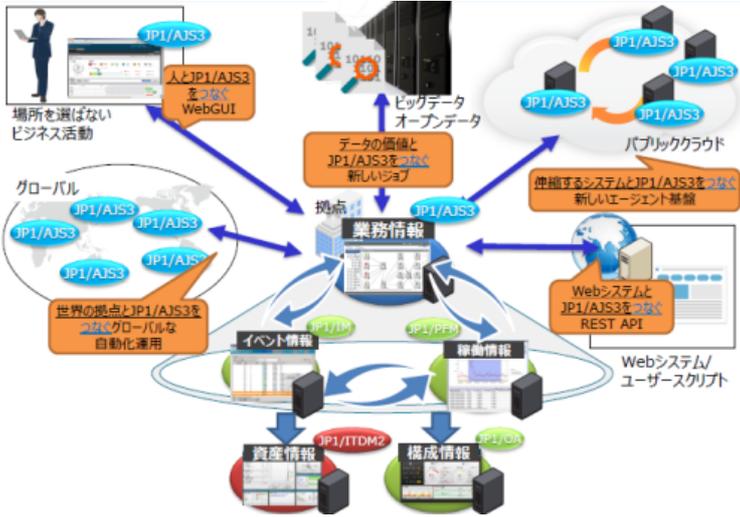
### JP1の最新情報はいつもアシストから

～ 始まる、始める運用業務のトランスフォーメーション ～



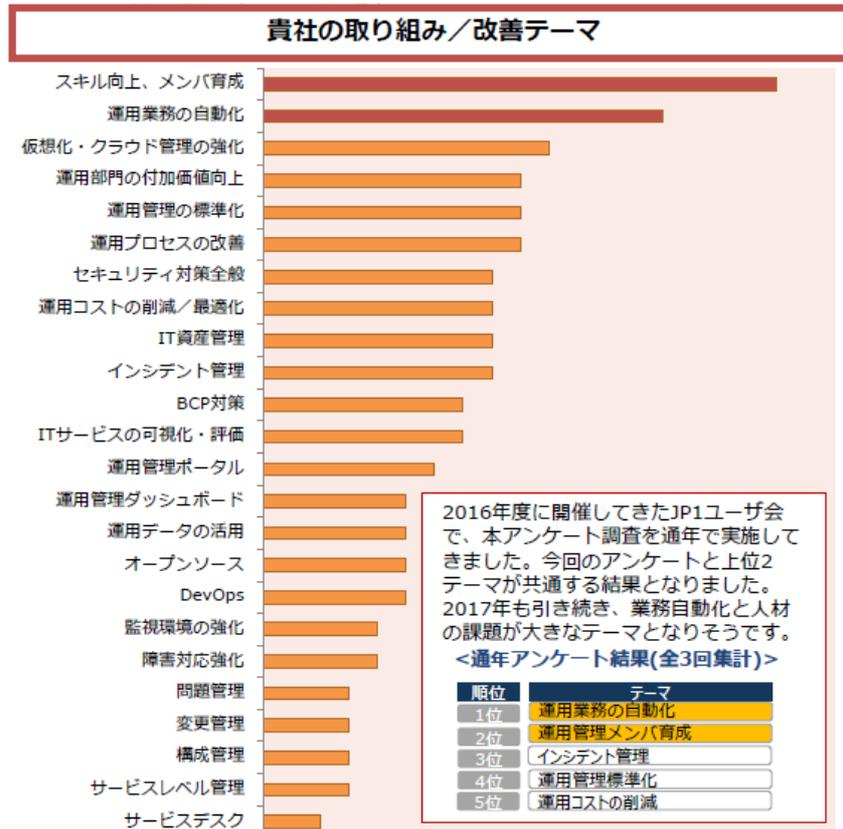
今年新たにリリースされた「JP1 V11.1」は、変わりゆくビジネスニーズと運用業務にどのように対応するかをテーマに、最新情報をご紹介します。運用業務の課題を「業務処理／運用オペレーション／コミュニケーション」に分類し、JP1製品ラインナップでの対応方法を事例や画面イメージを交えて紹介しました。詳細な機能説明からバージョンアップのメリットなども解説し、普段JP1をご利用の皆様も熱心にメモを取られている様でした。

### ■デジタル・トランスフォーメーションを支えるJP1



### アンケート＆参加者の声

ご来場の皆様にお答えいただきましたアンケートの集計結果です。



#### ■ マネジメント・トラック

- ・ビッグデータを自社以外から集め活用する方法があるのか知りたい。
- ・情報システム部の役割について改めて考えた。
- ・今後のビジネスのヒントが頂けて大変参考になった。
- ・特に自動化ビジネスの今後の気がなった。

#### ■ テクニカル・トラック

- ・同じ運用管理業務を担っている者として、他社の話が刺激になった。
- ・自社で取り組んでいる課題で、共通する項目があったので勉強になった。
- ・JP1/AJS3のバージョンアップを検討しているので、V11.1の機能を利用した運用改善の話を聞いて参考になった。
- ・JP1/Operations Analyticsがあれば障害の影響説明がしやすそうだった。

## Presents

ご参加の皆様へ、ユーザ会討議レポートやアンケート調査レポートなど、お役に立つ情報をお持ちかえりいただきました。



### JP1ユーザ会 アンケート調査レポート

- ・ 2015年 2月19日 JP1ユーザ会 東日本支部会2015  
来場者アンケート 「 IT部門における改善すべき課題 」
- ・ 2016年 2月17日 JP1ユーザ会 東日本支部会2016  
来場者アンケート 「 貴社の取り組み、改善テーマについて 」
- ・ 2017年 2月15日 JP1ユーザ会 東日本支部会2017  
来場者アンケート 「 貴社の取り組み、改善テーマについて 」
- ・ JP1ユーザ会 ワークショップアンケート  
「 2017年度 取り組みたいテーマ 」  
「 取り組みや改善が必要だと思うテーマ 」  
「 IT人材を育成する取り組みの中で感じる課題 」  
「 自動化の対策状況 」  
「 運用オペレーションの自動化に期待すること 」  
「 2017年のIT投資予測 」